

ITと金融で社会を支える。

<http://www.jais.co.jp>





日常を創り出す仕事。

あたり前の日常は、見えづらいもの。

例えば経済の血流とも言える金融機能がまひしたら、

その大切さをあらためて実感するかもしれません。

でも、そうはなりません。それは私たちがいるから。

今や人類にとってなくてはならない

IT システムがあたり前に動く日常は、

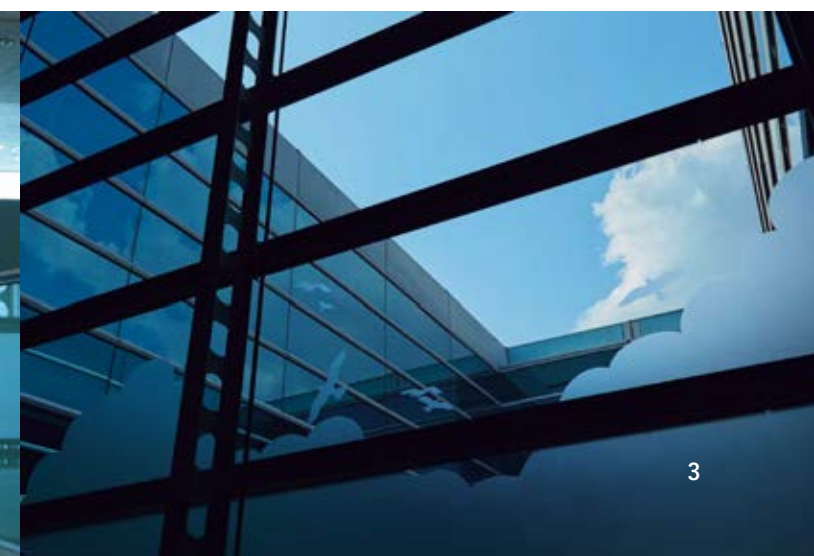
システム運用のエンジニアたちによって支えられています。

知恵と技術を振り絞り、可能なかぎり想像力を膨らませ、

まだ見えてすらいらないあらゆる問題、可能性について考えます。

その大切さに気づかれないくらい、

「あたり前」の明日を創り続けています。

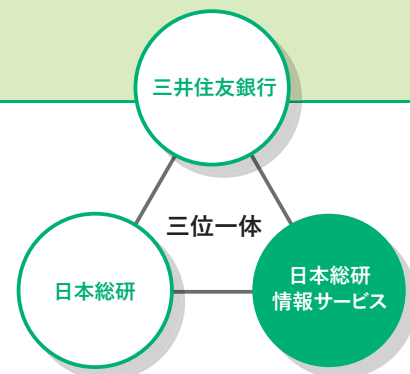


SMBCグループシステム運用の世界

私たちの仕事は日本最大級の金融システムを支える、技術力と対応力、そして責任の伴う重要なもの。
なぜシステム運用は必要なのか、どれほど重要なものなのかぜひご覧ください。

日本最大級の金融システムを グループとともに支える

日本総研情報サービス（JAIS）は、SMBCグループの一員である日本総合研究所（日本総研）のグループ会社として、三井住友銀行やSMBCグループ各社の金融システムの運用と開発を担っています。



「あたり前」の日常を創ることに 挑戦し続けることが私たちの仕事

SMBCグループ各社が提供するATMやネットバンキング、クレジットカードなど、あたり前のように利用できるのは金融システムが常に動き続けているからです。

私たちの仕事はこれらの金融システムを止めることなく運用すること。そして、未来の「あたり前」を創るために、あらゆる問題と可能性を考え、挑戦し続けることです。



大規模システムと身近な「日常」をつなぐ システム運用の仕組み

私たちのグループは1967年に世界で初めて預金や貸付、為替業務などあらゆる銀行業務を対象とする「総合オンライン」を稼働させました。

以来、より品質の高いシステムを追求し続け、磨かれたシステム運用の知識や技術は当社に脈々と受け継がれ、今なお「進化」を続けています。

下図は私たちが運用しているシステムの一部です。これらを止めることなく動かすことで、お客様や社会に貢献しています。



Cycle of System Management

システム運用の仕事

プロジェクト
スタート

運用企画

運用環境構築

運用テスト

カットオーバー

運行管理

- 運用改善提案
- 障害対応
- セキュリティ管理
- システム監視

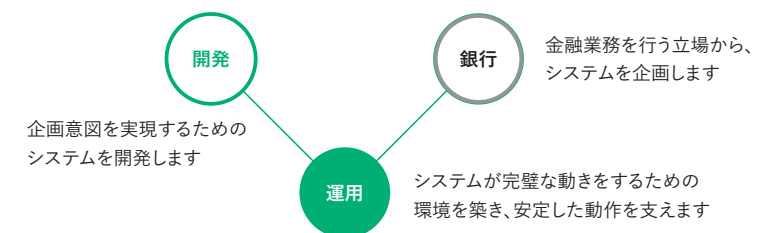
Attention!!

カットオーバー前の作業が
品質に大きく影響

今やビジネスプロセスとコンピュータシステムは、
切っても切れない関係にあります。
そこで日々の安定した業務を支えるものは、
システムを見守り、常にその働きを監視し続けることであり、
さらに万一トラブルが生じた際には、その影響を最小限に抑え、
迅速な復旧を実現する環境を築いておくことです。
そんな一連の動きをトータルに実現するのが、
私たちの「システム運用」という仕事なのです。

運用企画

運用の「あるべき姿」を描き、
全体像をデザインする



ビジネスを背後から支える業務システムは、「構築すればそれで終わり」というものではありません。むしろ**カットオーバー**してから、日々ストップすることなく安定してサービスを提供し続けてこそ、意味があるのです。そんな視点から、ユーザーに対して常にベストなサービスを提供する環境を支えること——それが運用の役割です。
特に金融システムは、24時間/365日決して止まることが許されず、**ミッション・クリティカル**なサービスが求められています。そこで、システムの企画や開発の初期段階から、運用のノウハウや視点を組み込んだプロジェクト運営が一層重要になっています。
運用企画は、外側からはなかなか見えにくいシステム運用の現状を、明確化して提示。将来にわたってシステムを安定的に動作させるための監視や制御体制とその範囲、さらに万一の障害時に対

する迅速な復旧プラン、それらに求められる方式や環境、人員体制や機器構成などを総合的に提案する役割を担っています。
ここで大切なことは、問題が起きる前にそれらを予測し、あらかじめ対策を練っておく姿勢です。また、日々の運用をより効率的にするために、業務をわかりやすく標準化して担当者が管理しやすい体制を築くこと、さらに誰もが理解できる明確な運用基準を築いておく姿勢も大切です。

footnotes

カットオーバー (Cut Over): 新システムや更改されたシステムが稼働を開始し、業務利用がスタートすること。
ミッション・クリティカル (Mission Critical): 業務の遂行やサービス提供に必要不可欠なシステムとして、障害や誤作動などが許されない状態。

- INTERVIEW -

効率化とセキュリティを考慮しながら 全体像をデザイン

私が携わっている運用企画の業務はSMBCグループのシステム運用上の課題を洗い出し、それを改善していくことです。システムごとに効率化を進めるのではなく、グループシステム全体を見渡したうえで、全体のシステムの中で効率化を考えています。効率化だけではなく、セキュリティ面を担保しながら全体像をデザインしていくことも重要です。これまでに携わった案件では運用ワーク

フロー基盤構築があります。開発部署から運用部署への依頼を従来の紙媒体から電子化したワークフローに変えることにより業務を改善しました。また、直近の仕事ではデータセンター入館の電子申請化もそのひとつです。まだまだ効率化できていない部分があると感じています。適切なITサービスを提供するため全体バランスを考えた「あるべき姿」に変えていくことが目標です。



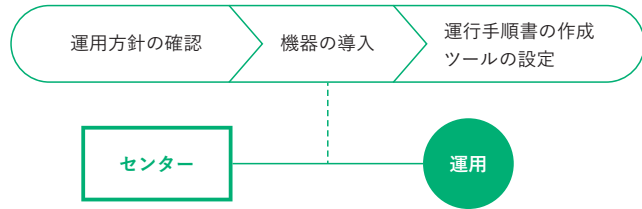
中白 有紀 システム運用(2009年入社)

運用企画のやりがい

運用経験・ノウハウを生かし、効率化できたと自負する部分に対して、好評価をいただいたときに、やりがいを感じます。

運用環境構築

「最適化」を合言葉に、
システムの導入・調整を進める



システムはサービス開始後、完全な働きを続けなければなりません。それを支える役割を担うのが、運用環境構築です。

そのためには、常にシステム全体に目を配り、リアルタイムで監視や把握ができる状況を準備しておく必要があるのです。

その守備範囲は非常に広く、例えばシステムやサーバごとのCPUやメモリの使用量や稼働状況、ディスク容量や使用量、ネットワークの通信状況、要求した処理の結果が戻るまでのレスポンス、電源の数や電圧、さらにプリンタなど周辺機器の状況など、さまざまです。

そこで、具体的な各機器の導入や設置を行ったうえで、監視ツールなど運用に必要なソフトウェア群の設定を行います。運用環境全

体をいかに最適に保つかを考え整備するのが、運用環境構築という仕事です。

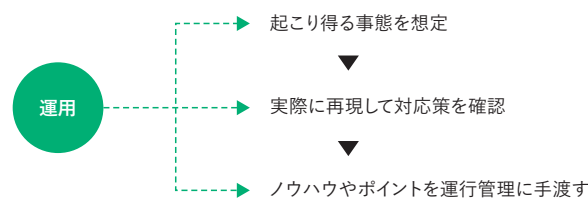
また、あらかじめ障害を想定した『運行手順書』を作成し、サービスを止めることなく、すぐに最適な処理を図って復旧を実現させる体制を準備しておくのも大切な役目。万一の障害発生時には、その原因を迅速に切り分けて担当者に指示を出します。どんな場合にも最適なサービス提供を維持する、そのための環境を整備しておくことこそがこの仕事の使命なのです。

footnotes

CPU(Central Processing Unit:中央処理装置):コンピュータの心臓とも言える存在。各装置の制御やデータの計算・加工を実行し、出力装置や記憶装置に出力する。
レスポンス(Response):ある信号や命令などに対する応答時間。

運用テスト

システムの安定性を
確認・実証する



システムが稼働する前に、それらが確実に動くかどうかを実際にチェック。同時にトラブル時にも、前フェーズの運用環境構築で作成した『運行手順書』通りの作業で対応が可能であることの確認を行います。例えば、何かひとつのシステムが停止した場合には、ほかの周辺システムにも影響が及びます。したがって運用テストには、さまざまなトラブルを想定したテストケースを考え、それらを一つひとつ確認していく、という地道で堅実な姿勢が求められます。時には、突然電源を落とすなど、リスクの大きいテストなどを行いながら、どんな場合にも障害を最小に抑え込み、早期に復旧できることを確認して証明する。それが、この仕事の使命なのです。

運行管理

システムの「健康維持役」
を担う



システムが毎日安定して動き、スムーズに業務をサポートし続けるためには、常にそれらを見守ることが不可欠です。そんな役割を担っているのが、運行管理という仕事です。安定稼働を支えるために、『運行手順書』に沿った操作を忠実かつ迅速にこなしながらシステムを動かしています。高度な監視システムを通して、1日のサイクルの中で数多くの処理が流れていくさまを目の当たりにしますので、担当者は金融システムの全体像を把握していきます。また、万一のトラブル時に対応を図るのも大切です。復旧手順に従い、迅速かつ確実な復旧を進めます。そして、このような知見からより効率的で安全な運用を考え、システム品質向上のための提案を行っていくのも運行管理の重要な仕事です。

- INTERVIEW -

未来に向けてクラウド運用の
指標づくりを担う

開発部署やシステム運用担当と連携しながら、クラウド環境を構築することが私の主なミッションです。サーバやソフトウェア等のITサービスをクラウド上で構築・運用することで、機器の管理やメンテナンス作業の省力化、リモート作業の促進など、さまざまなメリットがあります。ですが、システム運用にはあらかじめ制定されたシステム上の制約があり、これを踏まえたうえでクラウド

に置き換えていくことは、簡単ではありません。関係者の意見を調整しながら、“クラウド運用はこうあるべき”と自分たちで道を切り開いていくことが、この仕事の大変な部分であり、また醍醐味でもあります。今後、さらに加速していくクラウドシステム構築の指標づくりを担うという意味で、とても責任は大きいですが、それがモチベーションの源泉にもなっています。



金田 桃香 システム運用(2019年入社)

運用業務で成長したこと

運用1年目に銀行の国際業務システム更新案件の主担当に抜擢されました。当初は不安ばかりでしたが、周囲に助けられながらも無事に乗り切ることができ、自信になりました。

- INTERVIEW -

主体的に運用方法を提案していく

複数システムのエラーメッセージを集約し、一元管理する「総合監視基盤」と呼ばれるシステムの運用を担当しています。監視定義の作成やベンダーとの調整が主な業務で、最近では監視定義の作成自動化プロジェクトに抜擢されました。多くの関係者との連携が求められるため、緻密な調整が欠かせません。要望に応えるだけでなく、自ら最適な運用方法を考え決定できることに、大きなやりがいを感じています。



高野 剛 システム運用(2019年入社)

- INTERVIEW -

障害発生時にも冷静に対応

SMBC勘定系システムの安定稼働のために、障害発生時にはいち早く対応し、影響を最小限に抑えることが大切です。不具合が起きることを前提に、事前にしっかりと計画を立て、常に冷静さを保っています。また、障害復旧がゴールではなく、再発防止のための改善や提案を行うことも重要です。小さな障害でも銀行業務に直接影響を与えてしまうという厳しい部分もありますが、「あたり前の日常を支えている」というやりがいにもつながっています。



守本 史美華 システム運用(2022年入社)

SMBC グループ
システム開発

システム開発

大竹 僚

勘定系システムの監視業務からキャリアをスタート。開発部署に異動し、プログラム開発の経験を積んだ後、2018年10月から現在の部署に配属となりました。ここでは、SMBCグループ内の基盤システムを管理しており、その新機能開発やリリース、維持管理などを行っています。以前は自らプログラムを書くことも多かったのですが、現在携わっているプロジェクトではプログラムの製造や導入をベンダーに任せているため、要件整理や納品物の試験、あるいはベンダーと運用部署の調整が主な仕事になっています。

SMBCグループには、膨大な数のシステムが存在しています。当然、そうしたシステムにアクセスするためのIDも、膨大な数に上ります。私が参加している開発案件のひとつは、各種ID申請や発行、変更などのプロセスを完全電子化するというもの。それによって、膨大な数のIDを適正管理し、業務効率の改善を図ることが狙いです。

遅れてプロジェクトに参加したために、既存の機器構成やワークフローを把握することさえ容易ではありませんでした。分厚い資料に目を通すも、なかなか頭に入ってこず、途方に暮れました。試行錯誤の末に見つけた方法は、資料の内容を自分の言葉で

高まる期待に応えるため、
技術のアップデートに力を注ぐ

書き直すこと。アナログな手法ですが、知識を吸収するためには、結局、地道な努力に勝るものではありません。

一度システムをリリースした後も、継続的に新機能追加の要望が届きます。さまざまな利用者の声をプレッシャーに感じることもありますね。

当部には「情報共有連絡会」という活動があり、比較的近い年代の社員が集まって、担当システムの垣根を越えた横断的な交流を図ることができます。その中で、最新の技術動向や多様な考え方に触れることが、何より面白いと感じています。周知の通り、銀行業界は今、IT技術にとっても敏感です。私も技術者の一人として情報感度を高めていたいと考えていますが、情報のほうから自然と集まってくる環境に身を置けていることは、大きなアドバンテージに違いありません。ただ人材を消費するのではなく、末長く活躍できる技術者を育もうという当社の姿勢に、深く共感しています。

footnotes

勘定系システム：金融機関の業務である預金、融資、為替を支えるシステム。口座残高管理をはじめ預金や融資に対する利息計算、入出金処理、為替取引など会計勘定処理を行っている。24時間365日稼働し続ける高度な信頼性と安全性、処理能力が求められている。

Column

部署を超えた活発な交流が
心地良い刺激になる

当部では「情報共有連絡会」という活動が定期的に開催されています。これは本部長同席のもと同年代の社員6人程度が集まり情報交換をするもの。それぞれの業務内容から最新情報、日ごろ感じていることまで多岐な内容を語り合うことで、部署を超えた交流が生まれています。あたり前と思っていたことが相手には新鮮に感じられ、その逆もあり、互いに刺激し合うことで新しいアイデアにつながることもあるようです。

SMBC グループ
システム運用

システム運用

尾山 弘之

ボーダレスな協調精神で

セキュリティインシデントに挑む

SMBCグループ各社に降りかかるサイバー攻撃などの脅威を、24時間365日、監視／分析すること。それが私の所属するSOC (Security Operation Center)の使命です。

攻撃傾向やシステムの脆弱性、不審メールに関する情報収集などを行い、分析にかけます。そうして作成したレポートは、外部機関を含め、関係各所の情報連携の要となります。その他、マルウェア解析やフォレンジックなど、専門技術のサポートも行っていますし、社内のセキュリティ啓蒙活動も担っています。セキュリティのことならなんでも取り組むアグレッシブな風土が特徴といえるかもしれません。

サイバー攻撃を検出、分析するためには、まず“敵”を知ることが重要です。攻めの手法を知らなければ、防げるはずの攻撃も防げません。ゆえに、セキュリティエンジニアには、サイバー攻撃に関する情報はもちろんのこと、ネットワークやソフトウェア、アプリケーション、Webサイトなど、広範にわたるITの知識・スキルが求められます。それらを習得することは簡単ではありませんが、実務を通して学ぶ日々は非常に刺激的で、成長のチャンスに満ちています。

セキュリティインシデントの兆候を発見し、対処できたときの達成感は、何物にも代え難いと感じます。

SMBCグループに限らず、あらゆる企業にとってサイバーセキュリティは非常に重要な課題です。

かつて、メガバンクや地銀のフィッシングサイトが大量に作成され、お客様が不正送金の被害に遭うという事件が起きました。この事態を食い止めるために、各企業が組織の垣根を越えて被害状況や対策の共有を行い、世界中のセキュリティ業界の人々がフィッシングサイトの発見に乗り出しました。業界全体で攻撃者へ立ち向かう姿がとても印象的で、私自身その一端を担っていることを非常に誇らしく感じました。

今後は、SMBCグループの海外拠点に出向くチャンスをつかみ、グローバルな舞台でサイバーセキュリティの知見を深めたいと考えています。そのために、語学学習のサポートを受けはじめたところです。社員の“挑戦したい”を積極的に後押ししてくれる当社なら、きっと目標を実現できると思っています。

footnotes

マルウェア解析：サイバー攻撃に使われる不正な動きをするプログラムがマルウェア。そのマルウェアを調査し、特徴や危険性、さらには挙動などを多角的に明らかにしていくことをマルウェア解析という。セキュリティ対策強化の一環として非常に重要。

Column

情報セキュリティなくして金融サービスなし

近年、個人を狙ったサイバー攻撃だけでなく、特定の国家や企業を狙った攻撃も頻発しています。システムに不具合が発生することで業務自体が停止し、社会に大きな影響を与えてしまう恐れもあります。また情報漏洩や紛失といったセキュリティ事故も多く発生し、ますます情報セキュリティの重要性が増してくるでしょう。特に金融サービスの分野では、システムへの不正侵入による銀行口座の不正操作や金銭窃取、データ盗み出し、個人情報漏洩などのリスクに対して適切かつ迅速に対処していくことが課題となっています。

三井住友銀行が抱える全世界の外国為替取引を対象に、約定管理や取引レート計算をつかさどっている外国為替業務システム。私はこのシステムの機器管理や障害管理を担っています。障害メッセージ検知時は、関係部署やベンダーとともに原因を調査、ユーザーへの影響を最小限にできるよう、迅速に対応していきます。

為替業務は国内だけでなく、全世界の値動きに影響するため、大きな責任が伴う業務と認識しています。しかし、世界とダイレクトにつながっている感覚は、非常に面白いですね。世界中の最新情報をリアルタイムに把握し続けることが、この仕事の重要なポイント。日本にいたながらも、各国の休日や時差を考慮しなければいけません。

以前、アジア諸国の台風被災で現地業務が継続できない事態が発生しました。限られた時間の中で、現地状況の把握やシステムへの影響調査などを行い、臨時休業の影響

分析力と情報伝達力で システムの安定運行を支える

を最小限にとどめられたことは、大きな自信につながりました。

数々の障害に対応していく経験が、システムをより詳しく知るきっかけにもなっています。またこうした対応を通して開発部署はもちろん、銀行やベンダーとの人的ネットワークが広がっていくことも魅力です。残念ながら、システム障害はゼロにすることができません。だからこそ、影響を抑えながらシステムを安定運行させ、サービスを提供し続けることが私たちシステム運用担当の最重要ミッション。現状を迅速に分析すること、あらかじめ起こり得る障害を予測し備えておくこと、そして、正確な情報を迅速に伝えることが大切です。

日々の業務を通して、社会情勢や経済動向の知識は入ってきますが、自ら情報収集を行うことも欠かせません。例えば外部研修に参加するなど、積極的に自らをアップデートしていく必要があります。当社には、幅広い知識を習得するための研修が充実しているので、こうした環境の利点を存分に生かしていこうと思います。目指すは、所属部署の上長の背中。さまざまな分野の豊富な知識を身につけ、今後は部下たちの行動を正しく評価できるような人材になりたいと考えています。

Column

SMBCグループならではの人材育成

グループ会社である三井住友銀行や日本総合研究所に出向し、異なる視点・立場に立って金融や開発業務を学ぶ「トレーニー制度」。SMBCグループの一員であることのメリットを生かした、人材育成の仕組みです。“顧客側”を経験することで、業務における期待役割を深く認識し、視野とスキルを拡大させることが目的です。



国内での経験とグローバルなスピードで 欧米のサイバーセキュリティを担う

私は入社以来、データセンターでのオペレーション業務、信販システムの勘定系アプリケーション開発に従事しておりました。システムに対しオペレーターやデベロッパーとして様々な立場で触れる事ができたのは、今でも良い経験となっています。

現在は、ニューヨークで欧米のサイバーセキュリティ担当としてプロジェクト管理やセキュリティ監視を行っています。さまざまなセキュリティ脅威に対して、適切な対策を検討、実行していくことが重要です。新たなセキュリティ対策製品の導入を検討し、試行、適用可否を判断の上、実際の監視分析業務に活用する役割も担っています。

ニューヨークに赴任する前は日本国内で4年半セキュリティ業務に従事していましたので、当時の経

験が活かされていると感じています。

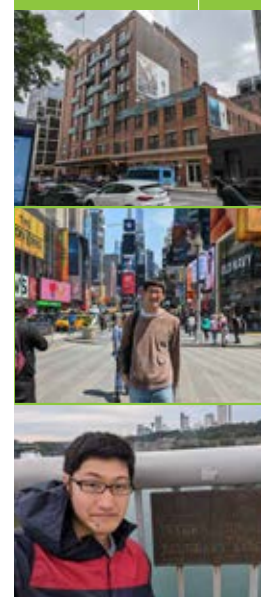
一方で言語と文化の壁は少なからず存在しています。初めての海外勤務であり、また英語が得意とまでは言えません。ただチームメンバーは私の伝えたい内容を一生懸命理解してくれようとしています。私も伝え方を試行錯誤することで、少しずつ壁を越えています。

またサイバーセキュリティに限らず海外のIT技術は日本以上のスピードで進化しています。業務においても次々と新しい脅威や対策技術に触れる機会が多く、これも海外で働くことの魅力と感じています。決して簡単な環境・業務ではありませんが、これからも組織やチームに貢献できるように努めるつもりです。

Column

異なる文化の橋渡し役として国内外の連携強化

海外での勤務では文化の違いを目の当たりにすることが多いです。一概には言えませんが、日本ではプロジェクトや影響の規模に合わせて検証や準備を行う事が多いですが、アメリカではとりあえずやってみる事が多い印象です。仕事だけでなく、休暇の考え方も異なります。例えば日本では休暇前に仕事を片付けるか、チームメンバーにお願いする等、ある程度準備をして休暇に入っていました。アメリカでは長期休暇に入ると唐突に連絡がある場合や、連絡さえ無く長期休暇に入ることもあります。こういった違いに驚かされる事は多々ありますが、どちらが良いという話ではなく、単純に文化が違うのです。私は双方の文化に理解を深め、橋渡し役になって、スムーズに仕事が進むようチームや組織に貢献していきます。



自分らしく、安心して働く ウェルビーイングの取り組みが 個々のパフォーマンスを高める

前 佑亮

人材育成部 2013年入社
採用担当として当社の魅力を学生に伝える。
1カ月の育児休暇取得後、現在も子育てに励む。

早川 友菜

システム運用部 2020年入社
ネットバンキングなどのシステムを担当。
在宅勤務の時は、銭湯に行ってリフレッシュ。

朝日 七海

システム運用部 2018年入社
部内教育担当として部内研修の企画から講師、外部研修の予算
管理まで行う。育児短時間勤務制度を利用して育児と仕事を両立。

小口 一樹

システム運用部 2019年入社
サイバー攻撃の脅威を24時間365日監視・分析。
週末は福利厚生制度を使ってテニスコートを予約し汗を流す。



支援制度

《産前／産後休暇》

産前は6週間、産後は8週間の休暇を利用することができます。また出産時には祝い金が支給されます。

《育児休業》

子どもが1歳6か月になるまで取得することができます。最長2年まで延長することができます。もちろん、男女を問わず取得することができます。

《育児短時間勤務制度》

それぞれの育児プランや家庭の事情に即して、毎日4時間勤務から7時間勤務まで、勤務時間を短縮することができます。子どもが小学校3年生を終了するまで、利用することができます。

主体性を刺激する研修制度が 個人の成長を促し、企業価値を高める

前 今回は「ウェルビーイング」というテーマで思うところを話し合いましょう。心身ともに良好な状態にあることを意味するウェルビーイングは、今、企業の在り方において大切なテーマです。私が所属している部署でも健康で安心できる職場づくりや働きがいの向上に努めています。

朝日 働きがいという点では、社員一人ひとりの能力向上と関係しているように思います。私は部内研修を担当していて、本社と連携しながらシステム運用部に必要な教育の仕組みを模索していますが、これもウェルビーイングに繋がるものではないでしょうか。

早川 ちょうど最近、どのような研修を受けたいか社員一人ひとりにヒアリングがありましたね。私は自分が担当しているシステム関連の研修を希望し、受講しましたが、やりたいことに寄り添ってくれる姿勢は率直にうれしいです。

小口 私が所属している部署はサイバー攻撃の脅威を監視・分析するチームですが、歴史が浅いため、どうしても既存の研修ではカバーしきれない部分があります。ですから自分に必要な研修を申請できることは、会社にとっても私にとっても有益に違いありません。

朝日 今後はスマートフォンの動画を活用して、手軽に研修が受けられるような仕組みも導入したいと考えています。時間や

場所の制約なく受講できるなら、より多くの社員のスキルアップに繋がると思います。

前 社員が主体的に学びたいような工夫と配慮がポイントなのでしょうね。それが社員個人の価値を高め、ひいては当社の価値向上を支えているように思います。

日々、生き生きと働くため プライベートの充実を支援

前 心身ともに良好な状態にあるためには、仕事だけではなくプライベートの充実が欠かせません。ですから当社は、ワークライフバランスへの配慮を非常に重要視しています。

小口 私は、友人たちとテニスを楽しむ時間を大切にしています。東京近郊では週末のコート予約が難しいのですが、当社では「保養所利用」の福利厚生制度があり、そのおかげで安価にコートを利用することができます。

早川 福利厚生といえば、「独身寮」のことはぜひ知ってもらいたいです。場所によって多少異なるそうですが、私が利用している寮はマンションタイプで、お風呂もキッチンも自室完備だからプライベートは確保されます。エントランスはホテルみたいだし、完全オートロックで女性にも安心。浴室乾燥もついているのに月1万円程度の寮費というのがとても助かっています。

小口 独身寮を出てからも「家賃補助」があるので安心ですね。

朝日 休暇制度も充実していますよね。私は旅行が趣味なので、「連続休暇」の仕組みを使って9連休を取得し、海外旅行に行っています。今度は子供を連れて北海道へ行こうと計画中です。

早川 私も連続休暇を利用して実家に帰っています。休暇制度があっても活用しにくい会社もあるようですが、当社では上司が積極的に取得するように言ってくれるので、新人でも気兼ねなく休める環境だと思います。

前 ワークライフバランスが取れているからこそ、仕事にも励むことができますよね。

金融システムを支える万全の体制が そのまま育児支援の基盤に

前 「出生時育児休業(産後ババ育休)」が広がり始めましたが、当社では10年以上前から男性の育児参加を支援する制度が導入されています。私自身も1カ月の育児休暇を取得して、出産の立ち合いや産後の子育てを行いました。

朝日 社会情勢を踏まえると、出産・育児に関わるサポートは本当に重要ですね。私は「育児短時間勤務制度」を利用しています。時間の余裕を持って保育園へ子供のお迎えに行けるので助かっています。

早川 私の部署でも、上司が時差出勤制度を使ってお子さんを送り出してから会社に来ています。子育てと仕事の両立ができるのはこの制度のおかげですね。

小口 きっとフォロー体制がしっかり構築されているから、皆さん安心して育児にも取り組めるのでしょう。

前 そのとおりだと思います。当社が扱う金融システムは、絶対に止まることが許されません。ですから、社員間で業務を共有して属人化を防いでいます。休暇制度や時短、時差勤務などが円滑に機能するのは、そうした仕組みが土台にあるからです。

Work Styleの変革 より柔軟になって、より働きやすく

前 コロナ禍を機にビデオ会議ツールのMicrosoft Teamsを導入したことで、在宅勤務もできるようになりましたね。上司の許可を得た上で、私自身は週に数回は自宅で仕事をしています。

朝日 在宅勤務は私も大賛成です。通勤時間がないため、その時間を自己啓発やプライベートの充実に充てることができるからです。

小口 在宅勤務の環境はできましたが、まだ全ての業務が在宅で、できるわけではありません。私の部署では、私たちの意見を採り入れた形で、様々な見直しが行われています。

前 社員一人ひとりが、最もパフォーマンスを発揮できるWork Styleが理想ですね。「働き方」と「仕事のやり方」を見直し、当社に相応しいWork Styleを追求する。それこそがウェルビーイングの本質だと思います。



自ら考え、行動する
意欲的な若い人材を、
全力で応援したい。

水谷 知義 常務執行役員 人事部長

私たちの仕事は三井住友銀行、日本総研と三位一体となり、グループ各社のスムーズな業務遂行を支援するシステムのあるべき姿を描き実現することです。それは結果として、グループ各社の先におられる法人や個人のお客様に、より良いサービスをお届けすることになります。

社会的責任の大きい金融システムを支える当社において、人材育成は最も重要な要素であり、会社全体で取り組むべきものであると考えています。IT スキルの向上はもちろんのこと、さまざまな課題を解決に導く論理的思考力やヒューマンスキルを身につけ、信頼性の高い集団になることが大切です。そのためには、社員一人ひとりが常に成長意欲を持ち続けることが必要であり、そのような人材こそが、当社にとって何物にも代え難い最大の財産なのです。

私たちは、人材育成として下欄に掲げたように、各自が入社3年目までに「活躍できる人材」となるための研修制度を整備。さらに、新人に対して年次の近い先輩社員が1to1で

対応する「実務指導員制度」や SMBC グループ全体の合同研修、若手人材が銀行や日本総研で企画や開発業務を遂行する「トレーニー制度」など、あらゆる機会を通じて人材の成長を図っています。

また、私たちが携わるものが大規模なシステムであるがゆえ、自らの仕事の前後の工程やプロジェクト全体まで考えを及ばせなくてはなりません。目の前の仕事に対し、「なぜこれが必要なのか」という視点を持ち、その仕事の本質を見抜く力を身につけるべきです。さらに、企画から開発、運用に至るまで各フェーズの担当者と対等に議論できる関係を構築し、プロジェクトに関わる全員で「最大のアウトプットを生み出そう」という情熱を持たなければなりません。これから私たちの仲間になる若い人たちには、確固たる信念を持ち、「この人と一緒に仕事がしたい」と思える人材であってほしいと思います。

JAIS研修制度の一例

1年目	3年目
新入社員研修 ・ ビジネスリテラシー ビジネス文章、ロジカルシンキング 対人コミュニケーション、プレゼンテーション ・ IT基礎 ITインフラ実習、システム運用基礎、システム提案	3年次研修 ・ 2年間の学びと成果の振り返り SMBC営業店研修 ・ 営業店業務理解
一年目中間フォローアップ研修	4年目
・ 半年間の振り返り ・ ビジネスマナー・基礎スキルの再確認 ・ 目標の再設定	4年次研修 ・ 会社の方向性、求められることの理解 ・ 3年間の学びと成果の振り返り
SMBC業務研修 SMCC業務研修 システム運用勉強会	5年目
・ SMBCグループの部門別業務理解 ・ SMCCの業務理解 ・ 主要システムの概要、運用業務の理解	業務プレゼン ・ キャリアの棚卸、キャリアプラン作成 ・ 人事、2年目社員に向けたプレゼンテーション
2年目	その他
2年次研修 ・ 1年間の振り返り ・ 先輩社員からのキャリア紹介	次世代リーダー育成研修、新任次長研修 など
実務指導員研修 ・ 後輩指導を学ぶ	全階層向け研修 ・ SMBCビジネススクール ・ SMBCグループeCampus ・ Udemu

体験記（新人研修）末永 千遥 システム開発



充実した研修と手厚いサポートの下で 初めての挑戦

文系学部出身の私は、入社前、IT知識の面で大きな不安を抱えていました。しかしJAISでは、希望すれば内定者のうちから情報処理技術者試験の通信教育を受けることができ、入社に向けてITの基礎知識を得ることができました。また、入社後2か月間の新人研修では、社会人としての基礎から銀行業務、システムの基礎まで幅広く学びました。現場配属後も、実務指導員やOJTなどのサポート制度が充実しており、個々のレベルに合わせて研修を受けることができます。私は現在、開発部署でプログラミング業務に従事しています。JAISの研修制度に支えられ、恐れずに初めてのことにチャレンジすることで、日々成長を実感しています。

体験記（寮生活）藤澤 司 システム運用



社会人としての自覚と 仲間との信頼を育む

私は、SMBC グループのオープン系システムの運用管理業務を担当しています。社会に大きな影響を与える金融システムの運用管理には大きな責任が伴います。また、入社と同時に初めて一人暮らしを始めたこともあり、新生活への不安もありましたが、社会人としての自覚が自然と芽生えた良い機会でした。システムを安定的に動かし続けるためには、周囲との協力が必要不可欠ですが、寮生活では同期や先輩と継続的な交流を持つことができます。私の住んでいる寮には、寮生が自由に交流できるスペースとしてコミュニティルームがあり、日々寮生と交流を深めています。困ったとき、いつでも頼ることができる人が近くにいる環境というのは、とても心強いです。

業界をより理解するための

IT用語集

◆ IoT(Internet of Things)

「モノのインターネット」とも呼ばれる。工場やオフィス、家庭のさまざまな機器や設備、モノが通信機能を持ちインターネットを通じてつながり、相互に情報交換することで、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行う仕組み。

◆ クラウドコンピューティング

従来は手元のコンピュータで管理・利用していたようなソフトウェアやデータなどを、インターネットなどのネットワークを通じて利用する方式。

◆ フィンテック(FinTech)

金融(ファイナンス)と技術(テクノロジー)を合わせた造語。IT(情報技術)を利用した従来にない金融サービスのこと。スマートフォンなどを活用したり、低コストな資金決済サービスなどにおいて今後の普及が期待されている。まだ法整備などが追いついていない面もあるが、行政側も新たな金融サービスに対する検討に着手している。

◆ 自動化

労働人口の減少や労働時間の短縮化傾向、AI、ロボット、IoTなどの進化を背景に、人の手を介さず機械やシステムによる処理方式への転換を図ることを指す。複雑な作業の正確化や迅速化、それらに伴うヒューマンエラーの排除などが狙いとされる。その中で、今後人間の仕事は企画や運用全体のマネジメントなど、より創造的な方向にシフトしていきだろう、と予測されている。

◆ データセンター

サーバやデータなどを管理する拠点のこと。オフィスビルの一室にサーバなどを設置するのではなく、強固なデータセンターにサーバを集約することで侵入者対策・災害対策・停電対策を行っている。

◆ ドキュメント

システムの設計や仕様、日々の運用やメンテナンス、障害時のポイントを説明するために作成された文書を指す。システム運用という仕事は、多くの人が関わりながら、その後何年間も続く仕事なので、何よりも人と人とのコミュニケーションが大切になる。そこで、システムやプロジェクトの概要やポイントを、当事者でなくても誰もが把握することができるドキュメントとしてまとめておくことが非常に重要だ。

◆ 仮想化

CPUやメモリなど、コンピュータシステムを構成する資源を分割したり統合したりすること。1台のコンピュータ上に複数の仮想コンピュータをつくり、それぞれ別のOSやアプリケーションなどを動かすことができる。

◆ ベンダー

単語としては「販売者」の意味。一般的にIT業界では、その意味から転じて、開発元・メーカーという意味を指す。パソコンやサーバなどを開発・販売しているハードウェアベンダーと、さまざまなソフトウェアを開発・販売するソフトウェアベンダーなどがある。

◆ 要件定義

システム開発の初期段階で実現すべき機能や性能などを明確にする作業のこと。ユーザーから開発会社に対する事実上の注文書にあたる。社内のニーズの引き出しや意見調整が重要となるため、要件定義を行うにはコミュニケーション能力も必要となる。

あたり前に営まれている毎日は

たくさんの知恵と技術、そしてチームワークによって、

つまりプロフェッショナルによって

「生み出されている」ということを知ってほしい――

そんな想いでさまざまな視点から私たちの仕事を紹介してきました。

どんな人生を、どんな生き方で歩むのか。

一人ひとり答えは違うと思います。

ただ、日本を支えるかけがえのない仕事のひとつとして

私たちが誇りとやりがいを感じているこの仕事に

皆さんにも共感いただけたのであれば、

ともに、日常を創り出していく道を歩んでみませんか？